

2008 年 1 月 年の初めに

「くろがね」の「くろびかり」の美しさと暖かさ そんな思いが頭をよぎっています

0801kobe01.htm by Mutsu Nakanishi

Merry Christmas & A Happy New Year !!



鉄の故郷 鍛冶職人が作る飾り看板が中世の街並みを演出
ドイツ ロマンチック街道 ローテンブルクの旧鍛冶屋敷

本年もよろしくお願いします。

昨年 12 月南ドイツのクリスマスの装いをした中性の街並みをめぐるツアーに出かけました。

そんな中で、落ち着いた中世の街並みを飾る手作りの鉄看板とそれを支えた街の鍛冶屋敷に出会いました。

伝統の美しさというか 日本では失われつつある伝統の「流儀」がごく自然に生きていると感じました。

■ 鉄の故郷 南ドイツ ロマンチック街道の宝石「ローテンブルク」

中世の街並を飾る鉄看板と鍛冶屋敷 walk (2007.12.7.&12.8)

日本の鉄「和鉄」も伝来して 2000 数余年。鉄の製品化技術である鍛冶技術は早くから習得されたが、鉄鉱石などの鉄原料から鉄素材を作る技術は 必死の努力がなされたと考えられるが、中々習得できなかった。

1000 年近くもかけて、鉄の製造法「たたら」製鉄を編み出し、それを改良しつつ、現代の製鉄業につながっています。

他の金属材料では早くに素材を作る技術が習得されたのに、鉄だけが なぜ 1000 年もかかったのだろうか・・・

色々な説があるが、未だに良く解らない。

「たたら製鉄」のルーツは朝鮮半島・大陸にあると考えられるが、その類型はどこかに置き去りにされたのか、見つかっておらず、日本で延々と技術改良が積重ねられ、日本独自の製鉄法として 編み出されたと考えるのが妥当と見られている。

重厚長大・「鉄」というと「もう時代遅れの旧態 学ぶものもなし」といわれそうであるが、

今 鉄の持つ種々の技術・仕組みが、先端産業・技術を支え、先端産業の引き起こす矛盾是正の対抗軸となっている局面をしばしば 耳にする。

まさに 2000 年の黒光り。

「1000 年近くも探し求めて、編み出した製鉄のすごさ」

そんな鉄の「技」・「流儀」・「知恵」が、今 変革の 21 世紀の幾多の課題解決の知恵として力を発揮出来ると感じています。

かつて「鉄」がそうであったように 今 時代の先端を走るグループがその未熟さゆえに、

流儀のない また基準のない 歯止めのきかぬ競争・格差を引き起こし、地球環境の悪化にも大きな負荷をかけている。

かつて 先端として同じ道を歩き、今既にその未熟さを克服した五金の王「鐵」の技・流儀・知恵が「黒びかり」を発揮せねば……と。

よく、なぜ「今 たたら なんだ」と問いかけられますが、

「2000 数余年を生き抜いてきた技術のすごさに未来を見たい」というのも理由の一つ。

ドイツ ローテンプルクでみた鉄のマイスターの作る鉄看板の見事さが石畳の街並に本当に良くマッチしていて、ドイツ人の気質などに触れたことも、この「鉄」の伝統の技・流儀・知恵が今のドイツの社会に色濃く息づいていると感じました。

また、本年 1 月 17 日 神戸では 阪神淡路大震災 13 年。

1995 年(平成 7 年)1 月 17 日午前 5 時 46 分 52 秒 あの大地震の記憶がまざまざとよみがえってきます。

被災の記憶とともに 老も若きもみんなが一緒になれた記憶や暗闇にパッとついたルミナリエのまばゆい光も忘れることが出来ません。

阪神淡路大震災ばかりでなく、世界には 今も多くの災難に苦しんでいる人たちが数多くいます。

「風化させてはならない」と良く言われますが、それも 追悼と苦難の中で培った業・流儀・知恵ではないだろうか……

2007 年のルミナリエ 財政難から来年の開催が危ぶまれ、100 円募金を呼びかけていましたが、その募金額は予想をはるかに超え、目標額の倍以上に達したという。

いかに神戸の人たちが この「ルミナリエ」に愛着を持ち、存続を期待しているかの現れと見た。

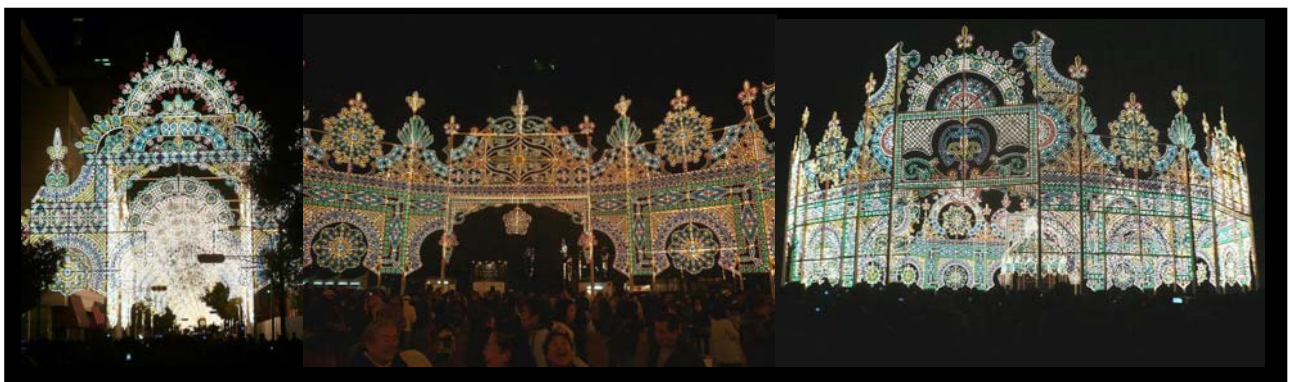
ここに「風化させてはならない」ものの思いがある。

今 激動の時代に「ふるくさい」といわずに 伝統の技・流儀・知恵に一度目をむけるべき時ではないか……

それが 新しい時代を生み出す駆動力 基準のない社会の行き過ぎに 新しい道をつけるのではないのでしょうか……

激動の中 新しい年が 平和で穏やかな年でありますよう

2008 年 1 月 年の初めに 神戸にて by Mutsu Nakanishi



2007 年 神戸 ルミナリエ 2007.12.13.

2008. 2. 3. by Mutsu NAKANISHI

2月になって、寒い日が続いています。

新しい年になって あっという間に2月です。 1月は「穴熊」 今年の抱負・目標は・・??? などと聞かれることもないままに、冬眠。 そろそろ 動かないとと・・・。

暗い話ばかりでいやな時節ですが、今年も精一杯「動 ただひたすらに」 これしかないなあ・・・と。

2月3日は節分。この時節になると「鬼」の話が話題になる。

「鬼」というと日本各地には「鬼伝承・伝説」があって、「いい鬼」・「悪い鬼」が話題になる。

今日もラジオでは 節分で豆をまくのに「福は内 鬼も内」と豆をまく里を紹介しています。

この「鬼」とは何者なのか 「鬼」の名前には、かつて「製鉄」の集団と関連したところが多く、「鉄」の生産活動が、周囲に数々の文化を伝え、生活環境を変えていったため、「いい鬼」「悪い鬼」がおり、また、その地の「開拓神」として、祭られることもあり、数々の伝承・伝説とともに日本各地に「鬼」の名前のつく土地・山が残る。

幾度となく訪れた東北の各地で、東北の人たちの蝦夷と呼ばれた時代の人たちへの強い愛着と近親感に新鮮と驚きで強烈な印象を受けたことがあり、この時期「鬼」の話になるといつも気になるのが、東北の「鬼」。

新しい年になって「今年は・・・」と自分を省みる時期とも重なって 毎年 この「鬼」なについて、思いをはせる。

そんな折、今年は1月10日 朝日新聞に「祖先たる『蛮族』蝦夷」と題して、「古代東北の「蝦夷」と呼ばれた人々が異民族でなく、日本人の祖先であるとわしたちを呼び起こす」記事が出たのをみましたので、あわせて紹介。

坂上田村麻呂と蝦夷の族長「アテルイ」

[illegible]

青森の岩木山(巖鬼山)の山麓にある鬼沢集落は「鬼の里」を名乗り、鬼神社を祭り、

「鬼の里 鬼沢」のねぶたが弘前の街に行く。

また、東北の背骨奥羽山脈は「北上(日高見)の鬼」と呼ばれる「蝦夷の族長 アテルイ」の領地。

ここでは、自分たちのルーツとして 連帯・近親感を持って、熱く熱く語られる。

岩手県民総参加で創られた長編アニメ映画「アテルイ」では「アテルイは親・兄弟を愛し、美しい自然を愛すために生きた。」

21世紀の人間がどう生きるかという大切なメッセージがある」とメッセージを送り、
北上市の市民憲章には「あの高嶺 鬼住む誇り 音の瀬音 久遠の賛歌 この大地 燃え立つ命 ここは北上」と歌う。

関西や西日本の「鬼」 丹後大江山・鳥取大山(伯耆溝口)・岡山吉備 鬼ヶ城の鬼 等々退治される鬼とは対照的である。
冷静に考えてみれば、この「鬼」 関西人の僕らにとっても 同じルーツ・仲間なのです。
どうも 都に近いところで育ったものと地方の人たちの意識の違いの大きさに戸惑いを覚えたことがありました。

今の「東京・大阪」と「地方」の違い そっくりそのままではないでしょうか・・・。
若者と年寄り 大企業と中小企業の構図も。
中央一辺倒の流れが続く今、地方に目を向け、目を凝らさないとこの意識の違いや全体が見えないのでは・・・

切捨ては 効率で かっこよく写るのですが、 必ず 行き着く先は 行き詰まること歴史が示している・・・。
あまりにも悲観的なのですが、その貧乏くじをひくのも・・・。
その時 自分の身に起こるまで気がつかぬのでは、あまりにもさびしい。
全体を揺るがす逆風を経験したことのない日本の中央では 足元が見えず、しかも、リーダーお任せの無責任な時代 ちょっとは 地方の意識にも 耳を傾けないと 自分の足元がぐらついていることに気がつかない。

年が変わり、節分の時節「鬼」が話題になるといつも 東北の「鬼」を思い出しながら、自分を振り返りつつ、こんなことが気になります。
また、 中央の論理で議論されている道州制が 東北では 仙台へ向かう東北各地からのきめ細かい高速バスネットワークを始め、東京に向かうのではなく、仙台を東北の中核都市とした人・物の動きが大きな流れとなって進行しているという。
同じ 流れは 西の福岡でも始まったと・・・。
中央では見えぬ21世紀の新しい胎動が始まっている。これは 中央が動いても もう つぶれない流れ。
何でも東京 そして 関西ではないし、すでにその間に 名古屋が割って入り、仙台・福岡で新しい動き。
おりしも、人の意識はすでにインターナショナルな日とも急激に増加。
TV・映画では 僕らはまだ外人と思っている人が、日本語をしゃべり、若い人たちはコスモポリタンに。
古代に起こった新しい国づくりの胎動が 今 21世紀の胎動が起こっている。
本当に 地球に優しい 地球人の時代が来るように
ヨーロッパも、日本と同じかと思いましたが、そうでもなく、ゆったりとした時間が街に流れている。
アメリカだって、救いはある。 ゆるやかに 大河が流れるように 地道に時代が流れていると感じました。

「ただひたすら 動」
もっとも 好き勝手に 思いつくまま 気の向くまま かもしれませんが・・・

節分の「鬼」に思いを寄せながら・・・
2008. 2. 3. Mutsu Nakanishi

和鉄の道 Iron Road 【2】製鉄遺跡探訪 2001 & 2002 上

10. 日本各地の鬼伝説 鬼伝承の鬼は本当に悪者か??? 2003. 2. 3.

和鉄の道 Iron Road 【1】製鉄遺跡探訪 1995. 10. -2000. 5

8. 弘前ねぶたと岩木山北麓 鬼伝説の里 鬼沢 鬼神社・十腰内 巖鬼山神社を訪ねて 2000. 8. 4.

和鉄の道 Iron Road 【4】製鉄遺跡探訪 2004

6. 蝦夷の鉄・東北 和鉄の道 東北地方 和鉄の道 9 編 取りまとめ 2004. 1. 18.

和鉄の道 Iron Road 【6】たたら遺跡探訪 2006

3. 蝦夷の雄「アテルイ」の足跡 「清水寺・将軍塚」 2006. 2. 9.

日本各地の鬼伝説 リスト

- | | |
|-----------------------|-------------|
| 1. 伯耆国 孝謙天皇 鬼退治伝説 | 鳥取県 溝口町 |
| 日野川流域 楽楽福神社の伝承 | |
| 2. 北上の鬼 蝦夷の雄「アテルイ」 | 岩手県一関・胆沢 |
| 坂上田村麻呂の蝦夷征伐 | |
| 3. 丹後国 大江山酒天童子伝承 | 京都府 大江町 |
| 4. 吉備国 「桃太郎伝説」の鬼ヶ城 | 岡山県総社市 |
| 5. 青森県 岩木山(巖鬼山)山麓の鬼伝説 | 青森県弘前市・鯉ヶ沢市 |

青森 岩木山(巖鬼山)山麓 鬼の里「鬼沢」



津軽 岩木山麓 鬼沢に伝わる「鬼伝説」

青森県 弘前市 鬼沢

昔々このあたりはやせた荒地で、作物の実りはきわめて悪かった。そこへ、岩木山の赤倉から下りてきたという鬼が現れ、せつせとこの荒地を耕し始めた。村人達は、これを見て、ただの鬼ではないと思い、開墾の困難と農業用水の必要を鬼に訴えた。すると鬼は、それでは力を貸そうと言ったきり、姿を消してしまった。翌朝になって村人たちが行ってみると荒地には、一筋の水の流れが勢よくほとばしっているではないか。村人たちは、さっそくその水を田に引き、以後、その水は干ばつの時も決して枯れることはなかったという。村人たちは、非常に喜んで、鬼に感謝するため、神社を建立して「鬼神社」と名づけ、村の名前も「鬼沢」としたという



【鬼神社 社殿正面に掲げられた農機具の献額】

北上(日高見)の『鬼』・蝦夷の族長「アテルイ」



岩手県北上市の市民憲章には

「あの高嶺 鬼住む誇り その瀬音 久遠の賛歌
この大地 燃えたついのち ここは北上」

と誇らしく歌う

この「鬼」とは古代「日高見(北上)川」沿いのこの地に
住んだ自分たちの祖先 蝦夷の族長 日高見の鬼「アテルイ」
とその一族 蝦夷 を指す



今から約 1200 年前 奈良時代の末期から平安時代初期にかけて坂上田村麻呂を征夷大將軍とした蝦夷征伐があった。

坂上田村麻呂がでるまで、朝廷が苦しめられ続けた蝦夷の族長が「アテルイ」

この蝦夷征伐のもうひとつの側面は今まで輸入に頼っていた「金やくろがね」がこの蝦夷の支配地でたことによる鉱物資源の支配

朝廷の蝦夷征伐の大軍を苦しめぬいた蝦夷の族長がアテルイ。

蝦夷の心情に共感しつつも戦わねばならなかった征夷大將軍坂上田村麻呂

長年にわたる戦争の中で、アテルイは蝦夷の和平を願い、盟友・モレと約500人の兵とともに田村麻呂に降伏。

坂上田村麻呂の「蝦夷支配に活用できる人材」と助命嘆願もむなしく、アテルイは河内国で斬首。



岩手県民参加の運動で完成されたアニメ映画「アテルイ」



京都 東山 阿蘇山 京都府街地全景 2006.2.9.



大日堂とその寺域の中にある将軍塚 2006.2.9.

「アテルイは親、兄弟を愛し、美しい自然を愛するために生きた。
21世紀の人間がどう生きるかという大切なメッセージがある」
と東北の人達はメッセージを送る。

【参考】

巨大勢力となった寺から逃れる為、奈良
平城京から平安京へ遷都されたこの時代。
東寺・西寺しか許されなかった平安京に蝦
夷の制圧に成功した坂上田村麻呂は国家
加護の道場として清水寺の建立を許されている。

東北にある蝦夷の勢力の強さがこのことから推察される。

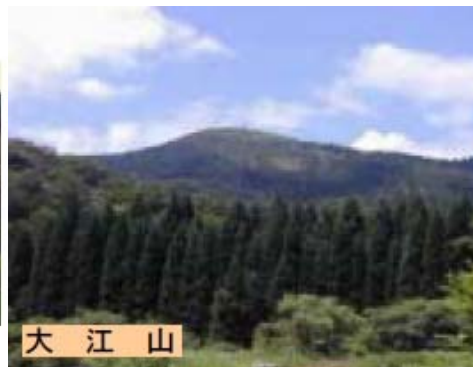
また、坂上田村麻呂の頭の中に蝦夷の族長「アテルイ」への思いがあったかも知れぬ。
その背後の東山 坂上田村麻呂が葬られた地には「将軍塚」の名前が今も残されている。
東北の地にも、大將軍 將軍通りなどの地名が今も残る。



清水寺 南の谷に面する清水の舞台下の丘にある アテルイ・モレの顕彰碑



福島県 沼原(ぬまっぱら)揚水発電所 上池貯水池 と 沼原湿原



大江山



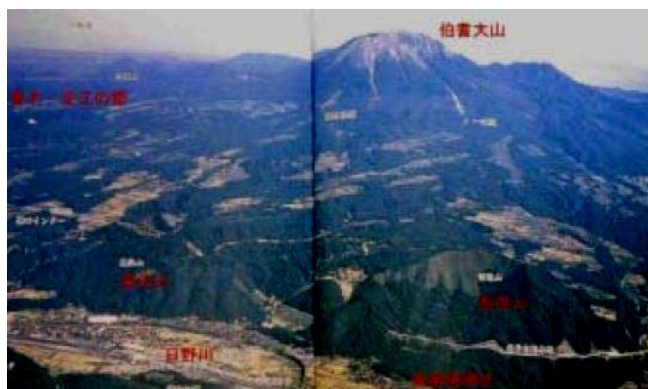
安達太良連峰 鬼面山 新野地温泉より



55℃の含鉄泉 赤

孝靈天皇 鬼伝説 伯耆 溝口 一楽福神社 古文書よりー

伯耆の国日野郡溝口村の鬼住山に悪い鬼 が沢山住み着いていました。
この鬼達は近くの村々に出ては人をさらったり、金や宝物・食べ物を奪って人々を苦しめていました。
これを聞かれた孝靈天皇は、みずから軍勢を率 いて鬼住山の南のこれより少し高い笹菰山(さすとさん)に登り、鬼住山の鬼達をことごとく退治され ました。
天皇が山に登り、布陣された時、人々は笹菰の団子を献上し、士気が大いに上がったといいます。
それで、この山を笹菰山(さすとさん)と呼ぶようになりました。
鬼をおびき出す為、山麓の赤坂というところに団子を三つ並べたところ、弟の鬼『乙牛蟹』が出てきて討たれました。
兄の『大牛蟹』は大いに怒り、手下を束ね一層暴れ、容易に退治することが出来ません。
ある晩 眠っている天皇に「笹の葉を刈って山のように積上げなさい。そうすると風が吹いてそれらを舞い上げ、鬼を追い退治出来るでしょう」とのお告げがあった。これを聞いた天皇がその通りにすると三日目の朝、猛烈な南風が吹き、積上げた笹を「あれよあれよ」と鬼の住処の方へ、巻き上げて行きました。天皇はここぞとばかり、金軍を叱咤して、舞いあがった笹の葉を追い、鬼退治に向かいました。笹の葉に巻きつかれ、また枯葉が燃え、鬼達はなすすべもなく、麓に逃げて降参 しました。人々は大変喜んで 麓宮原の地に笹で社殿を吹き天皇を祭りました。これが一楽福(ささふく)神社のいわれです。



鉄のモニュメント 世界遺産 ビスカヤ橋 スペインバスク地方 ビルバオ近郊

Internet & TBS TV「世界遺産」より 2008. 2. 24.

世界遺産 最古の運搬橋

ビスカヤ橋 Vizcaya Bridge.

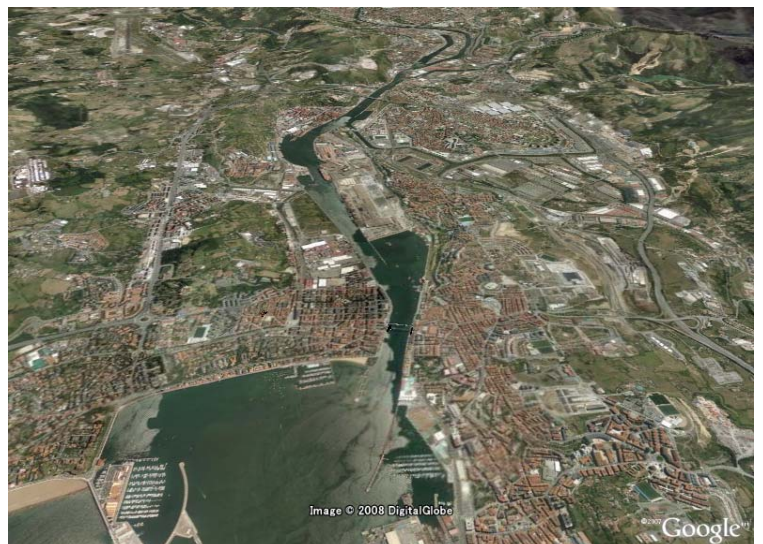
スペイン バスク地方 鉄と造船の町 ビルバオ市の近郊



2月24日 TV「世界遺産」の番組を見ていて、世界遺産になっている鉄構造の橋があるのを初めて知りました。気になってインターネット検索でまとめました。
フランスと国境を接するスペイン北部バスク地方 ネルビオン川に架かっている世界最古の運搬橋「ビスカヤ橋」



ビスカヤ橋(スペイン語: Puente de Vizcaya)はスペインのネルビオン川に架かっている世界最古の運搬橋。
ビスケー湾に流れ込むネルビオン川の奥には鉄と造船の工業都市ビルバオがあり、その河口 ビスケ湾に面したポルトゥガレテとゲチョの街を結んでいる。
ビスカヤ橋はバスク人のエッフェルの弟子の一人、アルベルト・パラシオの設計で1893年に建設された。運搬橋という形式はビルバオに向かう海上交通の妨げになることなく、また長い傾斜路をもつ巨大な橋を造らずにすむ解決策で、鉄製のワイヤーで空中にぶら下げられたゴンドラによって兩岸を渡る。
全長160mの橋は、川の兩岸に置かれた2つの大きな鉄塔の主塔から伸びるケーブルで支えられており、橋桁は、船の通行に配慮して水面から45mという高い位置に設けられている。
この橋桁から伸びる鉄のワイヤーの先にはゴンドラが吊り下がっており、人や車を乗せたこのゴンドラが川岸



から川岸へと移動する仕組み。一切装飾が施されていない鉄橋ですが、大変存在感があります。

現在使用されているゴンドラのキャパシティーは、約200人と乗用車12台(70人乗りの大型バス可)。

8分間隔の運行は年中無休の24時間体制で、ポルトウガレテとゲチョの町を片道約1分半で結んでいます。

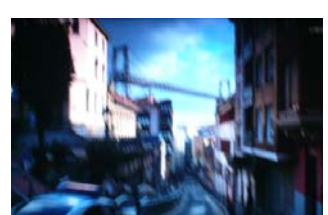
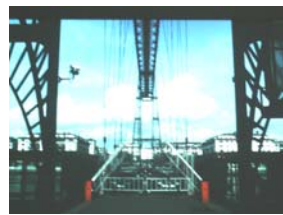
また観光用の歩道が上部構造に組み込まれており、50メートルの高さを港や湾を眺めながら歩いて渡ることができる。

ビルバオ市内からは、地下鉄を使って鉄橋近くまでアクセスできる。ビルバオ市の交通と一体化しているためバスや地下鉄と同じ切符が使える。

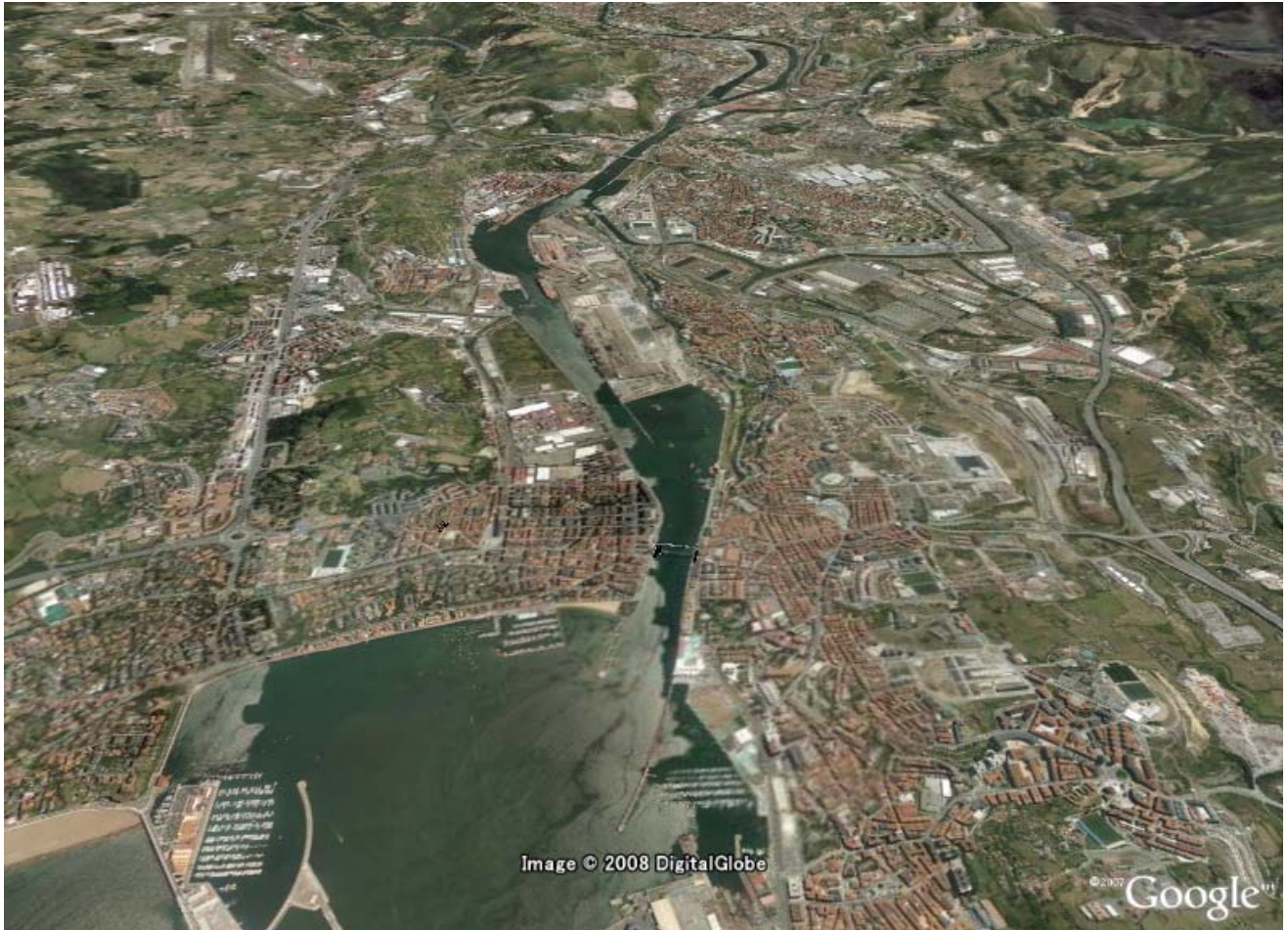
2006年7月13日に、ユネスコの世界遺産に登録された。

登録に当たっては、世界初の運搬橋であることや、その実現のために革新的な技術を用いた鉄製のワイヤーロープを最初に使用した橋であることなどが評価された。近現代の技術進歩の足跡を証する世界遺産である。ビルバオはビスカヤ橋が誕生する以前から造船業・鉄産業が盛んで、現在も造船業は街の主要産業であり、イバイサバル川沿いにはたくさんの造船所も見られる。

当時としては画期的な軽量鉄ケーブルを使った構造は、世界各地に造られた運搬橋のモデルともなりましたが、今日に残っているのはヨーロッパに3つ(フランスの Rochefort、イギリスの Newport、ドイツの Ostem)と南アメリカに1つ(アルゼンチンの Buenos Aires) だけである。







From Kobe 4月 思いつくまま

1. 3月23日 イースター・復活日に
2. 卑弥呼の時代「大和への鉄の道」のルートは 淀川・大和川・紀ノ川 ????
弥生時代の終わり 古墳時代の幕開け
やっぱり 大和川が最有力か… 畿内に現れる庄内式土器が語る卑弥呼の重要路

1. 3月23日 イースター・復活日に

今年はイースターが3月23日 いつもより早かった。

イースターがくると春であるが、この時期 クリスマスは キリストの受難に思いをはせ、自分の生き方や周囲の人たちに目を向けて祈る。

先日 友人からメールで 今年のはうるう年で2月は29日があったが、使っている日課表の月29日の項に「わたしたちが愛さない人のためにいのる日」とあるという。

自分の敵なる人の為には4年に1回祈ればいいのだろうか……という。

昨年8月の広島の平和行進に参加した時 ある神父さんが、「今の日本では、週末になると『ちょっと平和を』 ですね」と。

ガンと頭をたたかれた思いをしたことを思い出しました。



「酒と泪と男と女」「野風僧」など亡くなった河島英吾のフレーズが好きなのですが、その娘さんたちが奈良の街でやっておられる静かな喫茶店があると聞いていて、一度行ってみたかったのですが、3月8日探し当てていってきました。

その喫茶店の壁に下の写真のような河島英吾の絵とフレーズが飾られていました。



暖かい輪の集いに縄文のストーンサークルを重ねながら、現在の世相をあれやこれや…

元気をもらって帰ってきました。

また、4月は新しい出発の時でもあります。

地球人 みんなに思いをはせ「主の平和」と祈りますが、みんなが お互いを生かしあう知恵を神剣に出し合わねば…
ことしのイースターの時期の思いです。

2. 卑弥呼の時代「大和への鉄の道」のルートは 淀川・大和川・紀ノ川 ????

弥生時代の終わり 古墳時代の幕開け

やっぱり 大和川が最有力か… 畿内に現れる庄内式土器が語る卑弥呼の重要路

3月22日姫路で「倭国連合の成立と姫路地域の役割」のシンポジウムがあった。

弥生時代の終わり 古墳時代の幕開けを告げる3世紀 卑弥呼の時代の播磨の役割を告げるシンポジウムである。

私の一番の興味はこの卑弥呼の時代朝鮮半島の「鉄」を西日本瀬戸内から大和へ持ち込む鉄の道のルートはどこか???

卑弥呼の時代の後 九州に対抗した吉備・出雲・東海そして河内・大和の勢力など西日本の諸国が連合を組んで、初期大和政権が誕生したという。この連合の絆は朝鮮半島の鉄素材の供給ルートの支配だったといわれる。

この朝鮮半島の「鉄」を西日本瀬戸内から大和へ持ち込む鉄の道のルートはどこなんだろうか???

日本にはまだ 馬が居なかった時代 淀川・大和川・紀ノ川の3本の川の流域が考えられ、それぞれの川から大和へ入る周辺には後年それぞれ渡来の鍛冶集団と関係深い専用の鍛冶工房が現れる。その先駆けとなった卑弥呼の時代の主要道はどこだったのだろうか？
昨年の春 この3つの川沿いを大和へ至る古代の道をWalk。瀬戸内・大阪湾から 距離的には大和川を遡る 一番短いのですが、大和川には河内と大和の境 生駒山山地と葛城・金剛山地の切れ目から流れ出すところに亀の瀬の急流があり、隔てる谷の両側には険しい龍田山と二上・葛城山がそびえる。また、淀川や紀ノ川からは陰しくはないが道のりが遠い。

この疑問に答えてくれる話が聞けるかもしれないと出掛けました。

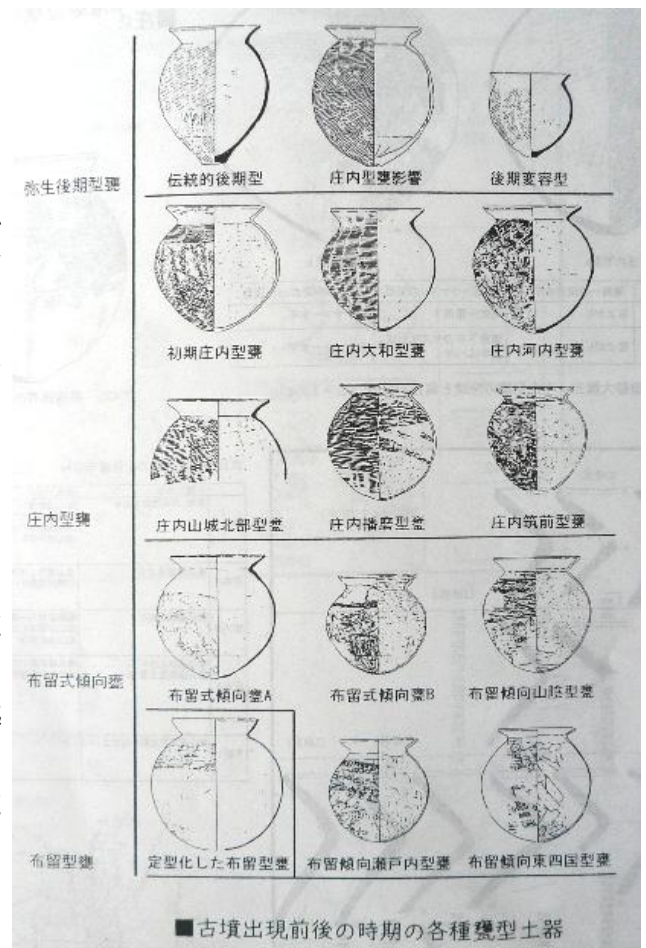
この疑問に答えてくれた土器の話。

卑弥呼の時代に先駆けた弥生の終わり、畿内に吉備などの特徴を併せ持つ新しい土器 庄内式土器(叩きの技法がうけつがれ、左斜めの櫛模様 内側が削られ、平底から尖がり底へ)が現れ、それが河内の中心部や大和に現れ、古墳時代の初期にはそれが 布留式土器と呼ばれるハケで化粧された形のきれいな丸型の土器に変わってゆく。この新しい土器の動きを見れば、時代が見えてくるといふ。

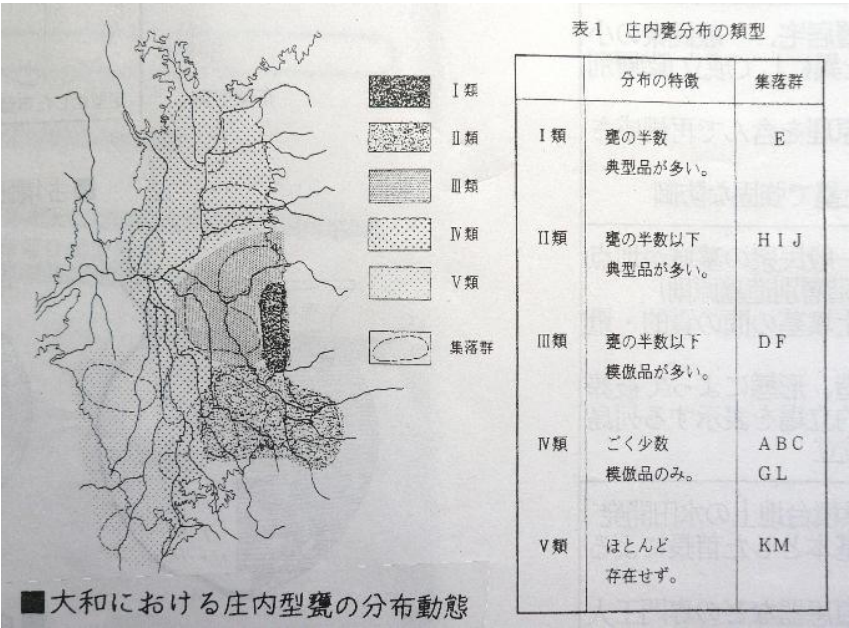
畿内でのこの庄内式土器の出現地をたどると 大和川流域河内の中心部がいち早く 淀川流域の北河内(枚方・交野)や紀ノ川水系と考えられる葛城で現れるのは遅れるという。

この庄内式土器・布留式土器の動きを見るとやっぱり、大和への道は大和川遡行がメインか

古代大和は要塞の地とよく言われるが、この大和川遡行・龍田山越の鉄の道を開いたことが、大和王権確立のポイントかもしれない。ついでながら、吉備と大和の中間点の重要ポイントにある播磨に庄内式土器が現れるのはずっと後。また、讃岐とこの吉備・播磨の交流を土器で見ると讃岐から吉備・播磨には多くの人が動いているのに播磨から讃岐へは人が動いていない一方通行という。



瀬戸内の鉄の道が当時の中央・メイン道路であることが、よく見え、現在の地方過疎化の波が古墳時代の始まりの頃にもあったと思えて面白い。



大和における庄内型甕の分布動態と弥生拠点集落

青木勘時「大和からみた播磨 -播磨における庄内式土器の意義」より

縄文土器の面白さ・美しさには惹かれますが、弥生の土器なんて みな同じように見えて 面白さも判りませんでしたが、すばらしい土器編年の魅力。ちょっと土器の見る目にひとつ加わったような気がしています。
おもしろいシンポジウムでした。

参考資料

シンポジウム「倭国連合の成立と姫路地域の役割」講演資料

青木勘時「大和からみた播磨 -播磨における庄内式土器の意義」

1. 大阪 国際ウエルディング ショウに思う「ものづくり」の現実



2年後とに開催されている国際ウエルディングショウが4月9日から12日まで大阪で開催された。

仕事から遠ざかって サビた頭の体操にもなるし、昔の仲間にも会えると案内状をもらって、11日 久しぶりに会場のインテックス大阪に出掛けました。もう5年以上遠ざかっていて 新しい技術動向を見るのも楽しみ。

以前は 大阪での開催は東京と比べて人が少なく、また、ビジネスの場というより、会社のステイタスを示すようなイメージ展示が多かったのですが、今年行ってみて、参加者のの多いのにビックリ。会場は凄い混みよう。

また、どの会場でも 何処も溶接機を持ち込んで、実用の現場溶接を実

演している。以前 同じような現場溶接の実演を持ち込む企画を「バクサイ実演をやめろ」といわれたのを思い出した。えらい様変わりである。大手メーカーもなりふり構わず、それぞれ「バクサイ」実演を連続して進めている。ウエルディングショウが本来のビジネスの場に変わったと驚きました。また、小さな1コマのブースしか持てなかったアジアのメーカーが、日本の大手と同じような広いブースでビジネス展開しているのにも驚き。

今 溶接のビジネスは活況だと聞いてはいましたが、現実に見ると想像以上でした。

でも このウエルディング ショウ の変貌は何を意味するのだろうか……

新興国が見せる現場主義のバクサイ手法を遅れているとし、先へ進むと称して IT 制御やビジュアル映像などの仮想画像そして、完全コンピューター制御の万能機がもてはやされた時代の終末か……。

現実の作業に使えるかどうか… 自分の目で確かめる現実的な現場主義の時代にもどったように見える。

日本のメーカーがブランドだけでは 新興国のものに勝てなくなった「必要の現実」 激烈な具体的なビジネス競争が見えてくる。「ペーパーで何ができるのか」「現場尊重の言葉だけで何ができるのや」と「ものづくり」の現場で自嘲気味に語られてきたことが現実のものになりつつある。

それが ウエルディング ショウの変貌にも 現れてきているように見え、そこにビジネスチャンスが生まれてきたのだろう。

あたらしい海外メーカーに働き場をみつけた仲間 そして、一緒に仕事をした海外メーカーのリーダーの自信に満ちた笑顔と忙しくユーザーの人たちと歓談する姿に出会えたのが印象的でした。

仲間から「今、溶接機はコンピュータ制御の素晴らしい自動機になっているが、機械の標準設定では作業はできても 品質は保証できず、その自動機に品質や速度などモディファイ付加の具体的な溶接設定を組み込める人が海外ばかりでなく、国内でも大量に不足。現場条件設定ができる人が引く手あまただ」とも聞きました。

「機械だけ持ち込まれても……」である。

思いもかけない別分野の人たちにも出会えて ラッキー。また、久しぶりに東京からこられた先輩にも出会えて、大阪の夕景を眺めながら、昔の技術談義に花を咲かすことができました。

不況の中で 苦しみぬいた仲間のビジネス うまく 舵取りして 乗って欲しいと……

時代は スピードで 動いている。

自分にとっては もはや 自分の場ではありませんが、やっぱり、時々 頭の洗濯しないと 置いてきぼりになってしまうとつくづく感じました。

霞ヶ関ではやたらに目に付く「〇〇会議をつくった 第三者をいれた〇〇会議」を作ったから 進むと……。

船頭多くしても ましてや ほかの人入れて…である。

指示した本人が、「自らやる」という姿勢のない会議の多発は「どつぽ」の連続。

対極には 自動車ショウに世界の自動車メーカーの社長が乗り込み、自ら自社の自動車に乗り、ダイレクトに自分で自社の自動車

を語る。そんな時代にきているのに、それに気がつかぬ未だコスト・国際競争力・効率化の言葉薄っぺらな管理にしがみつく日本。「IT」ではなく「アイティ」「アイティ」と叫びまわったのが今は下火になったと思ったら、今は地球温暖化防止のための「炭酸ガス排出権取引 ・カーボンオフセット 」の言葉だけがもてはやされている。

今も「IT 技術」「地球温暖化防止技術」は正面から取り組まないと「一番すすんでいる」との妄想に取付かれているだけで、いずれ置いてきぼりになってしまう。

「ものづくり」の世界でいわれる「根本原因・ルート コーズ」に眼を向けることをほうかぶれば、間違いなく付けが来るだろう。

心地よい酔いの中 久しぶりに出会った人たちを思い起こしながら

神戸への快速電車で 2008.4.11. by Mutsu Nakanishi

2. 久しぶりに アフリカのむかしばなしとアフリカのリズムを堪能

「江口サロン」の人たちに出会えました



5月4日午後 「地球おはなし村」を主催する江口久さん(民族博物館名誉教授)と 南アフリカ出身のアフリカ音楽のミュージシャン ジョゼフ・ンコシ・川辺知美さん ジョイントの「アフリカのおはなしと音楽」の会が京都市北文化会館であった。

この企画に協力推進した「地球おはなし村」の皆さんたちと一緒にかつて、参加させてもらった国立民族学博物館の特別展示「西アフリカ おはなし村」に集った仲間である。

あれから5年 久しぶりに江口さんの「語り」とジョセフさんの音楽 そしで一緒に集い、踊って飲んだ仲間に出会える。アフリカのあのリズムに出会えると聞くともう むずむず。 会後の「江口サロン」の飲み会も魅力ででかけました。

5年ぶりなので、知った人いないのでは……の不安も会場に入るとあの「おはなし村」の雰囲気そのままで、なつかしい顔が幾つも。。

久しぶりに アフリカのリズムに気持ちもルンルンでした。

中学生で太鼓をたたいていた女の子がもう 大学生のお嬢さん。 夜おそくまで楽しんで帰りました。

久しぶりに聞く 河辺さんの太鼓に合わせて語る江口さんの「オマルのひょうたん」に「ビラーリーさんの話」。

もうアフリカの夜ばなしの世界の中にドブプリと引き込まれてゆく。

ええなあ……と。まわりもみんな 身を乗り出して聞きほれる。

おはなしの後は ジョセフィンさんと河辺さんのアフリカ音楽の世界。

マリンバと太鼓が作り出す激しいリズムに自然と体が反応。手をたたき、体をゆずって会場が一つになる。

だれも
さいたことのない

アフリカのおはなしと音楽

江口久 & ジョゼフ・ンコシ

2008年5月4日(日)
京都市北文化会館
(創造活動室)

だれも
さいたことのない

プログラム

～第一部～
こどもの世界 おはなし：江口久
作曲：ジョゼフ・ンコシ
河辺知美
「オマルとひょうたん」他
☆休憩(5分)

～第二部～
江口久の世界 作曲：ジョゼフ・ンコシ
河辺知美
「男の子と指輪」
☆休憩(5分)

～第三部～
ジョゼフ・ンコシの世界
「ジョゼフ・ンコシが奏でる
アフリカの音……
アフリカのリズム……」

ごあいさつ

アフリカは人類の故郷です。アフリカは不幸にして植民地になり、独立後も、北の諸国のおかげで、かすかすの困難にあえいでいます。でも、大部分のアフリカの人たちは、まずしいながら、ゆたかな口承文芸や音楽を伝承してきています。逆にいえば、昔話の語りや楽器の演奏にささえられて、アフリカ人は豊かな生活をおくっています。わたしは四十年のあいだ西アフリカの昔話をさいてきました。どれも、おもしろいものばかりです。今日は、その中からよりすぐった昔話をここでかたることができ、みなさまのご来場によって、この催しが可能になったことをよろこんでいます。どうもありがとうございました。
(江口 祝)

江口久

ジョゼフ・ンコシ

私にはどうしても合わせられなかった太鼓のリズム 会場で手をたたいての参加。
長いこと このリズムわすれかけていたなあ・・・と。



「アフリカのおはなしと音楽」の会 京都市北文化会館で 2008.5.4.

会の最後は いつもながら アフリカのリズムに合わせて みな 手をたたいて 体をゆずって 総踊り。
5年前の民博「西アフリカ おはなし村」 歳を越えて踊る姿は みな 元気 元気。
会の後は 二条川原町のアイリッシュパブで ギネスを飲みながらの「江口サロン」
飲んで 話して 踊って。ここに来るとほんと 毎度ながら 話し始めたそのときから みな仲間
なんで ここに集っているのか 笑っちゃいますが、ようは この会が 体にしみてしまった仲間
終わってもまだ ジャンベのリズムが体をかけまわる。
又 続けて欲しいなあ・・・と。
地球おはなし村の「アフリカのおはなし」や「アフリカ音楽」の会の公演にも 一度顔をだそうと思いながら帰ってきました。



会の後 河原町二条のアイリッシュパブで ギネスを飲みながらの「江口サロン」 2008.5.4.

● [地球おはなし村 ホームページ](http://ohanashimura.web.infoseek.co.jp/index.htm) <http://ohanashimura.web.infoseek.co.jp/index.htm>

大阪を拠点に活動する「地球おはなし村」の楽しいホームページです

惜別

この5月「久しぶりに 江口サロンの人たちに会えた」と紹介した仲間

言葉と心の壁越える達人(朝日新聞 惜別より)と愛された 江口一久さんが急逝



また、ひとつ 僕の仲間のつらい話を伝えねばなりません。
この5月のホームページで「江口サロンの人たちに会えた」と紹介しばかりの神戸の仲間 江口一久さん
西アフリカの民話の収集・研究者でその語り部である言語・民族学者 国立民族学博物館名誉教授
その江口一久さんが、6月14日駅での転倒事故で、ほんの一瞬にして亡くなってしまった。

どこにいても、日曜日にはその土地の教会へ行くというクリスチャンで、10ヶ国語を超える言葉が話せるという言語学者ではあるが、言葉がわからなくても、初めての人でも、どこでも、話の輪の中に飛び込み、そのうちに、言葉も内容理解できるというまさに達人言語民族学者といわれた。

私とは正反対というか、どこでも飛び込んで直ぐ酒をくみかわし、肩を組んで踊ってお友達・お仲間。後先が逆で、行動を起こす人。それでいて、学者としての鋭い視点・思慮を持つ論客でもあった。

「ほな、今度一緒に行き、ええ酒の飲めるで」と青森の三内丸山遺跡のお月見の会に連れて行ってきて、縄文の道にはまるきっかけを作ってくれた人である。

また「民博で、2 西アフリカおはなし村の特別展、そこで、多くのボランティアの語り部が語る西アフリカの「おはなし」の展示やるんや。手伝いきてや」と。「おはなしの展示って、それ何」といついつ引き込まれて、ここでも多くの仲間と引き合わせてくれた。(2003年4月から10月)

バオバウの大きな木を会場に据え、その傍に語り部の語るお話の家をしつらえて、多くの語り部が常時、西アフリカの昔ばなしを語り、アフリカからやってきた仲間や語り部、そして会場に来た人みんな一緒になって、バオバウの木の周りを、ジャンベの太鼓にあわせて踊り回り、その先頭いつも、彼がいたのも懐かしい思い出。

語り部としても、本当にすごい実力で、登場人物になりきった語り口は、むかし話を聞いているというより、独り芝居についつい引き込まれてゆく、楽しいものでした。

このおはなし村がベースになった「地球おはなし村」を起こして、その村長として活動を進めて、民博退官後もこのおはなし村活動とアフリカフルベの民話収集・研究をつづける現役で、フルベの昔話の意味を語りとともに、みんなに伝えつづけ、アフリカを思い、「平和」を説きつづけた行動のひとつだった。

「アフリカのために、また何かやろうや。また、15日、御所の中でお茶会とおはなし村やるよ、京都で一杯どうや」と話したのが最後だった。

くちぐせは「まあ、そやな、ひとつよろしく」
まとまらない時でも、また、独り突出して收拾がなくなかった時でも、にこっと「ひとつよろしく」

「江口さんの、ひとつよろしくには、まいるわ」といいたがらも、みんな引き込まれてついてゆく、世界に多くの友達を持ち、多くの人を愛し、愛された人でした。

まだまだ、聞かしてほしかった昔話。また、博識の先を見据えた地球人の話等々
本当に残念で「まったく」穴があいたような気持ち。
彼の「ひとつ、よろしく」が耳に残っています。
ひと付き合いの下手な私にとっては、分け隔てのない達人の心には、何とか少しでも近づきたいものです。

また、彼がこよなく愛した「地球おはなし村」
この活動が彼のDNAを受け継いで、ますます、広がってゆくことを期待しています。

2008.6月 by Mutsu Nakanishi

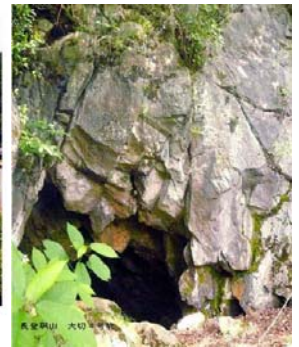
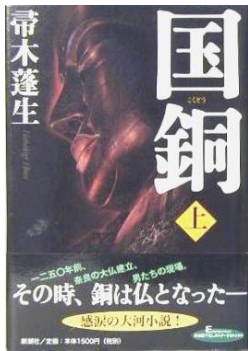


2003年4月 民博 特別展「西アフリカおはなし村」より

【参考】

1. From kobe 2008.5月「久しぶりに アフリカのむかしばなし と アフリカのリズムを堪能」
江口サロンの人たちに会えました
<http://mutsu-nakanishi3.web.infoseek.co.jp/walk5/0805kobe00.htm>
2. 2003.7月「バオバブの木の下で 国立民族学博物館 特別展「西アフリカ おはなし村」 open」
<http://mutsu-nakanishi2.web.infoseek.co.jp/walk/mnwalk07.pdf>
3. 2003.8月「「マリ国立民族舞踊団による音楽とおどり」 バオバブの木の下でみんな踊って」
<http://mutsu-nakanishi2.web.infoseek.co.jp/walk/mnwalk08.pdf>
4. 地球 おはなし村 home page <http://ohanashimura.web.infoseek.co.jp/>

帝木蓬生著「国銅」に 物づくりの思いを見る 奈良の大仏を作った長登の銅の周辺で



8月の更新で 奈良大仏の銅を産出した山口県美祢市美東の「長登銅山」をご紹介しましたが、先輩・友人諸氏より、「帝木蓬生氏著の『国銅』に奈良の大仏建立と長登銅山の銅生産の様子が丁寧に描かれている。」とのメールをいただきました。

長登周辺の秋吉カルスト台地の自然とともに「丁子」として働いた「国人」という人物を通して、長登銅山の鉱石採取から銅製錬の様子 そして 奈良の大仏建立の様子が克明にえがかれています。面白くて一気に読みました。

長登銅山堅坑での鉱石採取 たたら踏みと炉吹き製錬 製錬家庭での亜硫酸ガスとの戦いの厳しさ そして 鑄かけによる克明な巨大第仏の建立等々。 少しは知っていましたが、それらにたずさわる仲間・組織と操業プロセスそして作業歌が克明に描かれていて、古代のたたら衆の山の作業の様子がありあり。

銅製錬の工程を書き出すと本当に数行の無味乾燥なものになってしまいますが、実際の作業となるとそれこそ数々の知恵、硫化物鉱石の亜硫酸ガス抜きに 1ヶ月以上も鉱石を焼き続けて「焼ハク(金篇に白)」を取るなど工程は知っていましたが、実際の作業は知りませんでした。

銅の製錬では銅鉱石を溶融させた時に出るスラグをカラム 溶銅成分をカワ(金篇に皮と書く)というのですが、なぜ溶銅成分が「皮」か 不思議でしたが、ふいごを 吹き、風と火が廻ると鉱石は溶けて湯になり、銅分は沈み、その他の滓が浮くのでこれを流し出して棄てる。銅分がたまるとこれを冷やすと平べったい瘡蓋状の硫化銅の塊が出来る。それで「カワ」(金篇に皮)という。

やっとわかりました。また、溶出させたスラグをカラムという。

また、なぜ亜硫酸ガスを浴びる危険

を冒しても 火の中を見続けるのか 単に温度コントロールだけかと思っていましたが、そうではなく鉄抜き、不純物抜きを見続けている。最も大事な作業。

硫化銅の中から亜硫酸ガスが抜けてくると同時に溶銅の中から酸化鉄スラグとなって表面に沸き出てくるのをみつづけている。

鉄スラグが出てくる工程が収まると、溶けた硫酸銅の温度をゆっくり下げながら 表面に空気を吹きかけて硫黄分をガスにしてさらに取り除く。そして、慎重に水を吹きかけ、表面を凝固させて脱硫された薄皮の銅成分(荒銅)のみを取り出す。

(イメージ的には金属版の生湯葉製造のイメージ 生湯葉のようにやわらかく曲がることはありませんが……)

うっかり「どどど」と水が入れば、それこそ大爆発。

丹念に溶銅の表面に水を拭きかけるなど、危なくて、とても考えられぬ技。



鉱石を焼いて硫黄を飛ばす



焼いた鉱石を火床で溶融し、
鉄分と硫黄を飛ばして
硫化銅が主成分のカワにする
別子銅山「鼓銅図録」より



カワを再度溶融
硫黄を飛ばして荒銅を作る

そんな技で品質の良い荒銅を作り出す。本当に物づくりのすごい技。

どれもこれも「国銅」に描かれた「吹屋」での命がけの作業です。



坑内を走る銅鉱脈



主要硫化銅系鉱石 黄銅鉱



銅滓 カラミ



荒銅

また、奈良の大仏の建立の技術にも 私には思い入れがあります。

私が溶接のエンジニアとして 仕事を始めた当初

諸先生諸先輩から「溶接は奈良の大仏に始まり 宇宙まで延々と続く物づくりの基盤技術」

物づくりの知恵の結晶 常に先人たちの知恵を受け継ぎ、先端を行くと教えられました。

「奈良の大仏はとてつもない鑄掛けの鑄造技術」と知ってはいたものの あの巨大な大仏の鑄掛け作業

「どのように取り組んだのだろうか…… いつか きっちり調べてやろう」と。

この鑄掛けの作業も実に丹念にその工程が書き込まれていました。

大仏製作の同じ段の銅の同時鑄込み。100 を越えるこしき炉で溶解された銅が合図ひとつで 一斉に鑄込みを始める図など思いもみませんでした。大仏の建立もまた鑄型製作作り等も含め、巨大プロジェクトを内から支えた知られざる物づくりの技。

長登・秋吉から三隅へ 古代の大鉱物資源帯であるカルスト台地の山々 そして 奈良の大仏を作り上げて 山口長登へ帰る道筋 琵琶湖 若狭から 竹野 出雲 浜田 益田 そして 野並瀬・三隅 古代日本海側に続く「和鉄の道」。

本当に丹念に準備された筆。長登での銅製錬 そして 奈良での 大仏鑄造を通じて、物づくりの苦勞とそして 物づくりから得られる喜びが苦勞が生き生きと描かれています。

古代の物づくりというと浮浪・俘囚などを使った「苦役」のイメージがついて回りますが、「物づくり」の真髄というか 面白さが描かれ、物づくりを通じて得られる真の技術とは何か 物づくり技術として伝えたいことがふつつつと浮かんできます。

常木蓬生氏が『国銅』の著で描きたかったのは何だったのか……

別子銅山の作業を描いた「鼓銅図録」の工程絵図を重ねながら「吹屋」での物づくりの作業描写に夢中でした。

鉄と同じくフイゴを踏む「たたら」衆 この銅製錬の吹屋で歌われる作業歌も印象的です。

機械に名前をつけ、歌を歌って調子をとる。

そんな時代はるか彼方に消えてしまいました。

「機械が物を作る」「機械とマニュアルがあれば 効率よく物が作れる」そんな 現在の管理社会。

うつろに響く「物づくり」技術の大事さをお題目のようにとなえても……

物づくり技術で何を伝えないといけないのか……

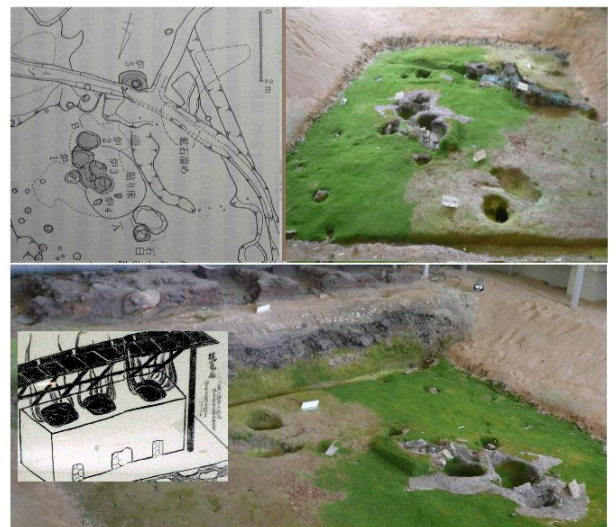
マニュアルでは判らん作業の中に生きる知恵

物づくりは この知恵なしに 出来ないだろう。

材料屋としての思い入れもあって、ちょっと異質な見方かもしれませんが、

全編にわたり そんなイメージで 一気に読みました。

教えていただいて本当にありがとうございました。



焼窯と吹床遺構例 兵庫県多可町 妙見山 石垣山銅山遺跡
時期が異なる炉が5基吹床から出土 また吹床遺構の上層部の壁に焼きがま遺構が見える

東播磨 妙見山 石垣山遺跡 2008.8.21.

加古川の中流 多可町

日本古来の吹屋の遺構賀出土

当時の吹屋の諸施設配置 操業の様子を明らかにした

■ From Kobe 思いつくま 10月 「混乱の時代に」

「変えられないものを受け入れる 心の静けさ
変えられるものを変える 勇気と
その両者をみわける 英知と」

「変えられないものを受け入れる心の静けさ 変えられるものを変える勇気と その両者をみわける英知と」

教えてもらってピンときた いつも頭にある言葉。これが 庶民の現実的な知恵だと思っています。

世の中は 本当に何が正しいのか 良くわからん 混乱の時代

政治家は 全く先を語らず、目前の政争に精を出し、マスコミは話題づくりか何か、せつな的なことばかりにしか目を向けず、自分たちが誘導したお祭り騒ぎが世論という。踊らされる方も 今踊らないと・・・と流されてゆく。

もっと落ち着いた先への道がないのか・・・・・・・・・・と。

どこを見ても芸能人の学芸会 TV 番組のひどさに悪態をつつく。

家族からは「年寄りの冷や水 自分が世の中に 付いて行けなくなっているのを自覚しろ」と怒られるのですが、最近読んだ「アエラ」に最近の TV のひどさについて書かれた一文に喝采。 おんなじこと言っている人がいる。

大阪人にある「わらわせて 場を盛り上げないと」との刹那の論理が東京でもっと変質して TV を席巻。

正と偽を見分けることもなく政治家までもそれを利用する。

アメリカのサブプライム問題に端を発した金融危機が世界を席卷。 金融危機の世界連鎖と不景気と雇用の不安感。

資金に余裕のある日本の銀行によるアメリカ金融への膨大な投資。 何か割り切れない。

低金利で利子を 10 数年銀行にせっせとつぎ込んだ結果である。

アメリカもついに公的資金を投入する。 アメリカもついに強欲資本主義の道の看板を下ろすのか・・・・・・・・・・と思いましたが、

今日 アメリカ下院は政府の金融安定化法案の公的資金投入は拒否した。

これはアメリカが進めてきた効率化 奥行きのない強者弱者の二者選択 O×論を推進してきた自己責任の社会の道としては 当然の道 すごい社会である。 良い悪いは別にして アメリカにはこんな凄みのある事を進めてもそれぞれが 生きてゆく道があるのか・・・・・・・・と。 この成り行きは しっかり見たい。

でも アメリカのこの凄みある強欲主義は世界から見放されるだろう。

ちょうど BS ではオリビア ハッセイの「マサーテレサ」の映画を再放送していました。

「変えられないものを受け入れる 心の静けさ
変えられるものを変える 勇気と
その両者をみわける 英知と」

私には やっぱり こっちの生き方の方に共感する。

今の混乱の社会世相を反映してか、新聞の出版広告などで見ると最近 国際競争や金融の本の中に この「愛」をテーマにした本が増えていることも気になっています。

団塊の世代が云々いわれるが、団塊の世代の社会は 働けば働くほど生活がみんな上がった社会。

企業の汚さや歪はあったものの・・・ 一億総中流 総何々といわれた平準社会

今ほど 若者がかわいそうに見える時代はない。

やっぱり 平和が一番 武器は取らない。

それでは立ち行かぬと人は言うが、あまりに強欲なのは悪を通り越して罪であること そろそろ認識しなくては・・・と思う。

また、 取り込むばかりでなく 与えることも

今度の総選挙 さあ どうなるでしょうか・・・・・・・・

「アエラ」の檄文に触発されて、 また ぶつぶつです。

From Kobe 11 月

1. Yes we can 私たちにはできる
2. 巣に引っかかった虫の振動で獲物を知る蜘蛛の習性

1. Yes we can 私たちにはできる

オバマ次期大統領の勝利宣言の演説。 やっぱり すごい。

その格調の高さにびっくりです。

市民は次の日 歴史的な演説を長く自分の下に留めるため、演説の全文を載せた新聞を買いに長蛇の列を作って、「Yes We Can」の格調高い唄まで広く歌われだしたという。すごいですね。

選挙中 何度も そのカリスマ性というか 演説のうまさ 若者が熱中するのも無理からぬ と思っていましたが、そこに次期大統領としてのすごい自負・理想に格調も加わって・・・。

さすが リーダーの気概。

また、IT 万能 二個-の割り切りの短期主義のアメリカ人が、映像・ラジオのせつなから書き物になった演説をしっかりと読み直し、歴史的瞬間を自分の手に書き物で保存しに走るとは・・・。

イメージの違うアメリカにびっくりすると共に ここにアメリカの奥があるのか・・・と。



折しも折り、日本でも、世界はアメリカ サブプライム ローン問題に端を発した 金融不安に株価の大暴落そして大不況の追い打ち。何度も聞く 政治家の無節操な付け焼刃の言葉の数々にもううんざり。

- アメリカのサブプライム問題に アメリカ・ヨーロッパは大打撃をうけるが、日本はもう 10 年バブルを克服し、大丈夫。アメリカやヨーロッパのようににはならぬ。 日本を経験をアメリカ・ヨーロッパに教えるのだ・・・と。ところが アメリカに連動して株価は大暴落。 その崩落の大きさはアメリカ・ヨーロッパに勝るとも劣らず。

(アメリカと全く同じ線を描いて推移する図式 そのもの)

「自己責任で株を買え 投資運用して資産形成しろ。」と言ってきたのはどうなったのか・・・

老後の預金も大きく目減りである。 ローンが払えず、町にはネットカフェ難民があふれ、正規雇用はどこにもなしのその日暮らしが急増していることが、ひっそりと裏で語られている。

- 銀行は政府が助けて「傷は浅い。 いま 欧米の買いどきだ」と。
国民は不況に苦しみも 銀行は攻めだと言う。その金 みんな 本来 預貯金者へ来る利子をせせと銀行に積んだやつとちがうのか・・・ 返せ!! と叫びたい。
- 日本も株価大崩落に世界大不況の真っ只中に突入すると次は の言葉がちまたに踊っている。
「世界同時の 100 年に一回の大不況に見舞われている。 選挙やっている場合でなく 不況対策に専念する」と。
期待が膨らむ中 この対策が「一人当たり 12000 円の給付金」「日曜日の高速道路の大幅ディスカウント」でそれを誇らしげに演説発表するトップリーダー。
アメリカの鼻持ちならぬところもあるが、このトップリーダーの違いに もう啞然と言うか日本がおかしくなりつつあるのがはっきり映った一瞬と理解する。

日本はずっとアメリカの後を追いつつ アメリカナイズしてきたと言われるが、そもそも本当だろうか・・・

最近の TV と同じで、表面的な自分に都合のよいかわこのいいご都合主義が はびこっただけではないだろうか・・・

ふたを開ければ、日本だけが 世界の孤児。そんな危機感すら感じる最近の政情である。

ぼやいてばかりは いられない。 「Yes We Can」である。

ついでながら 先日 山口から神戸へ帰る夕方の高速道路でみたびっくり。
ちょうど長距離トラックが行列をなしてビュンビュン飛ばす時間帯である。
ところが、長距離トラックがおとなしい。

あんだけ ビュンビュン追い抜き競争をしていたトラックが前のトラック
を追い抜かないのである。たまに追い抜くトラックも追い抜き速度は90km。
追い抜くトラックと長いこと平行して走って追い抜いてゆく。

一台だけだったら たまたまか・・・と思うのですが、山口から神戸まで、
次から次に追い抜くトラック皆同じ。

勢いよく猛スピードで追い抜くのはカッコいい乗用車のみ。

ここまで トラック業界の不況が進み 運転手一人ひとりに ここまで業界が追い込まれ、ガソリンのコスト意識が
徹底されているのか・・・とトラック業界の不況のすごさを認識しました。



高速道路を併走するトラック

ちょうど 先日朝日新聞の「天声人語」に 航空自衛隊幹部の「我が国は侵略国家だというのは 濡れ衣」との論文を批判し
た記事が載っている。

「「珍しく」と言うべきか、時代小説の藤沢周平に政治がらみのキナ臭い問題に触れた随筆がある。
先の戦争をめぐる教科書問題が騒然となったとき、く（蹂躪された）相手の立場に立ってみることを
自戯的などというのは軽率な言い方である。」と、その歴史観の一端を述べている。

▼ そうした相手の立場はおろか、自らの立場も、政府の立場もおかまいなしの「突撃」には驚いた。

・・・・・・・・・・・・・・・・

▼ 加害の意識を欠き、事実にも目をつむる内向きの論理は危険なものになりかねない。

冒頭の藤沢周平は、いつもの穏やかな筆致ながら、そう案じていた。

・・・・自衛隊の後任は、猛将よりも知将がのぞましい。

」

朝日新聞天声人語より 抜書き

この自衛隊問題も大変ですが、どこか 今の日本の政治家に最も乏しい面を言い当てていませんか・・・。

知将のリーダーを待望してはならないのですが、 そんな社会変革をしっかり推進できると映る政治家いないのか・・・。

日本のブレがはやく修正されることを願わずに折られない。

「Yes We Can」。 そう自信をもってそう言って欲しいなあ。

2008. 11. 10. 神戸で

By Mutsu Nakanishi

Internet に掲載避けていた オバマ・バラード

「Yes We Can 」 やれば出来る

It was a creed written into the founding documents that declared the destiny of a nation.

Yes we can.

It was whispered by slaves and abolitionists as they blazed a trail toward freedom.

Yes we can. Yes we can.

It was sung by immigrants as they struck out from distant shores
and pioneers who pushed westward against an unforgiving wilderness.

Yes we can. Yes we can.

歌詞はニューハンプシャー州の予備選後のオバマ氏のスピーチからとったもの、
the Black Eyed Peas のメンバーWilliam James Adams Jr. が作曲、
ボブ・ディランの息子 Jesse Dylan がディレクターで作成された。

2. 巣に引っかかった虫の振動で獲物を知る蜘蛛の習性

今年はどうも蜘蛛が大発生しているようだ。
山口の家に久しぶりに庭の樹木のあちこちに巣をかけている。
吉敷の田中さんの家に行くとやっぱり多い。

きれいに多角形状の蜘蛛の巣の前で、田中さんが「蜘蛛の面白い習性している・・・?」と小さな葉っぱをちぎり、蜘蛛の巣の端にひっつけ、巣の端を小刻みに震わすと、蜘蛛の巣の中心にいた蜘蛛が引っ付いた葉っぱのところにやってきて、葉っぱを抱かえるとそれを巣からはずして、下に落として中央の元の場所に帰ってゆく。

何度やっても そうする。

全く知らなかったのですが、巣に引っかかった虫を蜘蛛は巣の振動で察知して飛んでくる。知りませんでした。

面白がって 家の庭の巣でもやってみました。

むかし、そんな自然を対象とした遊びがたくさんあったのだなあ・・・と。

ところで、あれだけ粘着性のある蜘蛛の巣。

蜘蛛自身は風に揺られたりしたときに隣の巣や自分の巣に引っ付かないのか?

これも これも不思議です。



2008. 10. 19. 山口で by Mutsu Nakanishi